

日時：2023年11月8日(水) 9:30 集合場所：大倉山駅 (当初予定の10月4日から変更)

- ・中川駅 8:54～8:55 センター北 8:58～9:10 日吉駅 9:16～9:21 大倉山駅
- ・中川駅 8:49～8:59 新羽駅 9:04(バス41系統 新横浜・鶴見行)～9:15 大倉山駅 (新羽駅 バス3番乗場)

散策ルート 大倉山駅 ⇒ 法華寺・いの池・師岡熊野神社 ⇒ 樽町杉山神社 ⇒ 横溝屋敷(見学) ⇒ トレッサバス停からバスで新横浜駅へ。(歩4km) (option: 獅子ヶ谷公園北側の見晴らし台) 急坂・階段・尾根道の[熊野神社市民の森]を避け、道路を歩いて 杉山神社、横溝屋敷に行きます。



帰路：横浜市バス 104 系統 表谷戸・トレッサ横浜バス停・11時 01 07 16 31 37 46 ・12時 01 07 16 31 37 46
 臨港バス [鶴02] 表谷戸・トレッサ横浜バス停・11時 10 12 32 53 ・12時 12 32 50 52
 (15分で新横浜駅) (トレッサ横浜で 買い物・食事も良いです。 レストランは南棟にあります)



集合場所：大倉山駅の改札を出て左側の高架下

左手(東)へ 200mで、綱島街道を信号で渡り左手(北)に緩い坂を 200mで、熊野神社入口交差点、右角に石碑があります。Y字路を右手の住宅地の道路です、緩い坂道を進みます。200mで「法華寺」が見えてきます。なお、道は狭く歩道もないので要注意です。法華寺のすぐ西側が「師岡熊野神社」で、その門前に「い」の池があります

参拝を終えたら神社と「い」の池の間の道を東へ 500m、右側に師岡小学校が見えてくる。小学校前を過ぎた民家横に細い十字路があり、左へ行くと師岡杉山神社、右へ行くと環状2号線の表谷戸バス停、環状2号線を左へ行くと師岡交差点で信号を渡ると、細い道に「横溝屋敷」への案内看板がある。細い路地を進み5分ほどで「みその公園・横溝屋敷」に到着です。

改札を出て右手の通りは「エルム通り」です、ギリシャ風の建物が続いています。平成元年の再開発の際に、大倉山記念館がギリシア風の洋館だったことからとか。(アテネの目抜き通りのエルム通りと姉妹都市)



駅の西側はギリシャ風の建物



駅を左に進むと綱島街道へ

左手(東)に200mで綱島街道にぶつかります。信号を渡り、左手(北)の先に祠があり、綱島街道の道標もあります。200m先に熊野神社入口の交差点、右手の角地に熊野神社の案内の石塔が建っています。案内に従って右に曲がり、緩い坂道を東へ200m進むと左手に法華寺の森が見えてきます。



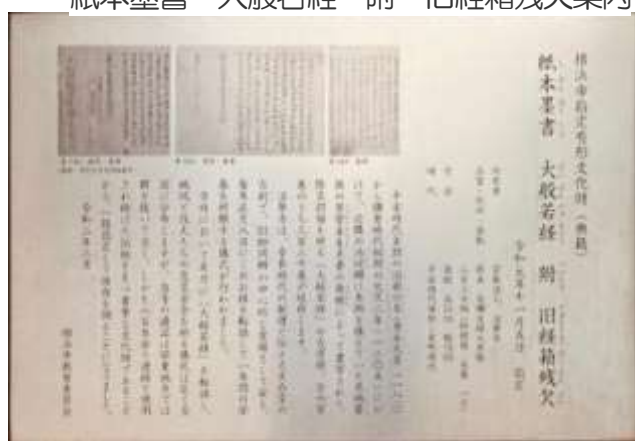
綱島街道を北へ



法華寺

横浜市港北区師岡町にある法華寺は天台宗のお寺で熊野山全寿院法華寺という。高倉院の勅願所との寺伝を持ち、神亀元年(724年)に全寿上人が開いたことから、全寿院と号した。その後、仁和元年(885年)光孝天皇の御后妃御願成就に依って法華寺としたと云わる。江戸時代、法華寺は師岡熊野神社の別当寺で、横浜の広い地域を差配していました。明治に廃仏毀釈で廃寺同然になったが、檀信徒の力によりようやく今見るように復興した。法華寺には横浜市指定有形文化財「紙本墨書 大般若経 附 旧経箱残欠」が所蔵されています。本書は、平安時代末期の治承6年(1182)から鎌倉時代初期の元久2年(1205)に掛けて、近隣の他辺に本拠を構えていた在地豪族草薙末友夫婦の発願によって書写されたもので、除災招福を祈る「大般若経」の古写経。全六百巻のうち参百参拾巻が現存します。

紙本墨書 大般若経 附 旧経箱残欠案内



師岡熊野神社



師岡熊野神社は「関東随一大霊験所」として知られ、関東地方における熊野信仰の根拠地として、また、横浜北部の総鎮守の宮として古代より現代に至るまで広く篤い崇敬を受けています。

ご祭神は伊邪那美尊（いざなみのみこと）、事解之男命（ことさかのおのみこと）、速玉之男命（はやたまのおのみこと）。境内地は約 16,000 m²あり、聖武天皇時代の西暦 724 年、全寿仙人によって開かれた神社です。

毎年 7 月 24 日「夜祭」そして 25 日の「例大祭」は当社で年に一度の大祭です。7 月 23 日「祭初め」から始まり、7 月 26 日「総社祭」まで 4 日間にわたり執り行われます。特製の行衣(きょうぎ)を着た勇壮な担ぎ手たちによる神輿渡が行われます。

熊野神社の御社紋は八咫鳥（やたがらす）です。

古事記によると、この鳥は熊野大神のお使いであり、神武天皇が熊野の山中で道に迷われた際、天皇をお導きするために遣わされたのが、この鳥でした。

鳥は夜明けを呼ぶ鳥、太陽を招く鳥と言われます。人生の闇に迷い悩む人々を明るい希望の世界に導く神の使いの霊鳥として長く信仰されてきました。

サッカー日本代表のエンブレムは、足の守護神八咫鳥を表していることから、「サッカー御守」を頂けます。



神殿の裏に「の」の池 当神社草創の地であるこの池の水は禪定水と呼ばれ、どんな干天でも涸れることがなく、大雨でも溢れることがないと言われています。

南北朝期の落雷による火災で、社殿が焼失した際、神宝・神体等をこの池に投げ入れ消失を免れたと伝わっています。また、毎年 1 月 14 日に行われる年占行事の「筒粥神事」は、この池の水を使って行われます。

（今回は 師岡貝塚、師岡市民の森には行きませんが、地図の①②③）

裏手の権現山には頂上付近に 3 等三角点、師岡貝塚の説明板があります。眼下に新幹線を眺められます。又、山を下って神社の右手（東）から外に出て坂道を左に上がっていくと師岡市民の森の標識が現れ、右に曲がると森の入り口に到着です。ちょっとしたハイキングになります、丸太階段を上ったり、下ったり切通しを渡ってまた登ると小さな公園に出ます。最後の急な階段を下りきると師岡杉山神社に出ます。

豆知識（はまれぼから）

「ちの池」綱島街道を熊野神社入口から北に 400m 先の「大曽根第二公園」はもとは「ちの池」でした。

「ちの池」は形からでは無く、悲しい言い伝えがもとになっているとかです。

その昔、身重の巡礼の女が池の近くで、産気づき子どもを産み落とし、子どもを手にしたまま池に身を投げた。池の水は、翌朝 真紅に染まっていた。

農業用の灌漑用水だったが、1969(昭和 44 年)宅地化により埋め立てられ、一部は「大曽根第二公園」になった。「いの池」「のの池」「ちの池」、生活用水で「いのちの池」と呼ばれていたそうです。

師岡杉山神社（樽町杉山神社とも呼ばれる）（神奈川県神社誌より）

樽町、師岡町の町境に位し、樽町全町の鎮守としてこの地に鎮座し、明治六年十二月村社に列格。新編武蔵風土記稿に「杉山社、字大下にあり石階十二級を設く、本地荒沢不動を神体とす、例祭は例年八月二日、隣村 師岡村法華寺の進退する所なり、社内に棟札あり、其中に応永年中鰐口を鑄す事を記す、この鰐口は故あって昔村民の方へあづけ置きしと言伝ふるのみにて今は在所さだかならず、かかる古きものありしなれば、定て古きものなるべけれど社伝も見へず、且石碑に残る事さへなければ今よりはただし難し云々」とあり。



杉山神社を参拝後、トレッサ横浜北棟を左に見ながら 100m で師岡の交差点に戻り、環状2号線の信号を渡ると左側に横溝屋敷の案内板があります。200mで横溝屋敷に到着です。



みその公園「横溝屋敷」



江戸末期～明治の農村の屋敷構えをほぼ完全に残している貴重な文化財。民俗資料の展示とともに、四季折々に、自然の中で年中行事も行われています。横浜市指定有形文化財に指定されている。戸幕府旗本の小田切氏領の上獅子ヶ谷村で名主を務めた横溝氏の屋敷である。



建物・屋敷ごと横浜市に寄贈された横溝屋敷では、江戸時代からの主屋・長屋門・蚕小屋・穀蔵・文庫蔵など5棟の建物を修復し、農村の生活を身近に感じれます。令和4年12月長屋門の茅吹屋根が葺き替えられました。

現在、横浜市農村生活館みその公園「横溝屋敷」として公園化され、公開されている。母屋2階には民俗資料が展示されており、訪問者も少ないのでのんびりと見学できます。



(火事の時屋根が取り外せる構造)



主屋1階の間取り



トレッサ

大型商業施設「トレッサ横浜」

トヨタオートモールクリエイイトが運営する複合型商業施設。北棟は2007年12月、南棟は2008年3月に開業。環状2号線を挟んで北棟と南棟に分かれ、「ペDESTリアンデッキ」で結ばれている。また車用の「スカイデッキ」で左右両方向からの入出場が可能で、更に、約5kmの敷地内道路を配置し、駐車場待ちのクルマで周辺道路が混雑しないよう配慮されています。また、施設の外観は横浜市の「緑のネットワーク」に呼応するように緑化に積極的に取り組んでいる。

トレッサとはフランス語で「喜びでワクワクする (Tressaillir de Joie)」

- ・北棟は、横浜市の姉妹都市のフランス・リヨン市旧市街の街並風。(ライオン像、レリーフ、だまし絵、マンホールはすべてリヨンで特注)
- ・北棟1・2階にはトヨタ系列のディーラー各社の新車展示があります。
- ・南棟にはレストラン街もあり。



豆知識：江戸時代の横浜に殿様はいたのか？

はまれぼ 2019年5月3日から

横浜は旗本や幕府直轄(代官)が治める土地だった。旗本も普段は江戸に住み、領地の村は代官が管理特に東海道沿いは幕府直轄領が多かった。また増上寺などの寺社領も多く 非常に入り組んだ支配が行われていたのがわかる。

17世紀半ばの都筑区域の支配状況

【企画展 江戸時代の上りこま 都筑の村々】
(2009年 横浜市立博物館) の記述をもとに作成

- ・旗本領〇人 は、その村で領地を持つ旗本の人数
- ・増上寺＝江戸・芝の増上寺
- ・幕府＝幕府の直轄領

江戸時代の横浜はこのような状況場所によっても時代によっても支配していた人数は多数いた。(いわゆる、村の殿様やお代官様名主などが取り仕切っていた。)

なお、唯一の大名家としては六浦藩米倉家があった。(大名とは1万石以上 1石：30万円)